

ほっけもん

210 かきょう

入社試験



大行列！もってけ新鮮野菜
～ふれあいフェスタ～

11月23日(祝)に開催されたふれあいフェスタは『もってけ!!新鮮野菜』でスタートしました。朝9時からの配布開始前から長蛇の列ができ、用意された地元大崎産の野菜400セット(キャベツ、ナス、ネギ)は早々と定員に達しました。

今月の表紙

蓬摩郷句 兼題『蕎麦』(そま)

太て短け蕎麦じゃが女房ん味がしつ

(唱) 喉をこささつが そいな旨し

西ノ園ひらり

廻い棒ん調子が揃つ蕎麦叩つ

(唱) 気の合た夫婦 たいだいませ

上村牛歩

手打つ蕎麦何も無田舎け客く繋つ

(唱) 何も無かどん 食て行つきゃんせ

諸木小春

家族申しつ賑こ蕎麦で年しゆこせつ

(唱) 親に子孫ち 長振い揃つ

上窪サエ子

蕎麦好つが頭も上げ汁も飲つ

(唱) 出汁が利いちよい 旨か蕎麦じゃ

二見愚楽満

大崎短歌会 兼題『月』

月蝕とふ満月はゆがみわが眼にもゆらぎて今宵の天体ショーは

中崎ハナエ

彦星と織姫の話をみあひあの子はいまは月の世界に

原田葉子

今まさに沈まむとする満月にしばし息のむ秋の朝明け

長重悦子

拉致されし子等も愛でるや満月は今宵雲間に見えかくれして

坂元つる子

窓越しの夕月さやか杉の上影を落とすてしばしうっとり

内田ちどり

大崎俳句会

夕映への段々畑や曼珠沙華

宮脇洋子

夏の夜のレストランの灯赤く燃え

溝口 稔

蒲公英や石の割れ目に正座する

坂元つる子

老いの身の生きる張合ひ草むしり

益倉睦美

草を蒔き田にやすらぎの白露かな

宮下 のし

田の神を廻りささめく彼岸花

折田スズ

夏休みクレヨン画伯遊びをり

内村美恵子

人権啓発シリーズ

～考えてみませんか。人権のこと～

【『自由』という言葉のお話】

明治時代に英語の『Freedom Liberty』をどのような日本語に翻訳すべきか、学者が論議した結果『自由』と翻訳したそうです。当時、日本では仏教用語として自由という言葉がありました。その自由は『わがまま、気まま』を意味する言葉でした。それをそのまま『Freedom → 自由』と翻訳したものですから、『Freedom Liberty』の考え方が違って来たわけです。もともと英語でいう『Freedom』は『権力からの束縛や支配を受けることなく、自分の意思に従って神に恥じない行為を行うこと』の自由であり、当然その行為には、神に対しての責任がともなうものである』という考え方があります。『わがまま、気まま』に生きることと違って、自分が信じる神を信仰し、神に対して自分の行動に責任を持つということなのです。『自由』には責任が伴うものであるということになります。